

9月になりました。長月です。

中高ではすでに新学期が始まっているところも多いと思います。かつては9月1日から一斉に二学期という地域が多かったのですが、学校を取り巻く環境の変化で、新学期もばらばらになりつつあるようです。多くの学校では、秋は文化祭など学校行事の季節なのですが、これも受験対応ですでに終了という学校もあるかもしれません。大学の先生方は収穫の秋。後期がはじまるまでのこの期間が、研究が一番進む時期ではないでしょうか。

ネットワークでは、「夏休み経済教室」が無事終了。今月は各地で部会が開催され、次の取り組みへの準備がはじまっています。

そんな季節、今月もネットワークの活動を報告するとともに、授業に役立つ情報を提供いたします。

【 1 】最新活動報告

8月の活動を報告します。

【 2 】イベントカレンダー

これからの活動の予定などを紹介します。

【 3 】授業のヒント

【 1 】最新活動報告

8月に行われた活動の様子を報告します。

■ 「夏休み経済教室」が盛況のうちに終了しました。

8年目となった、日本取引所グループと共催で行っている「先生のための夏休み経済教室」は、炎暑の名古屋を皮切りに、全国四会場で開催されました。今年は、昨年に比べ参加者数も増え、13日の東京高校教室では一日の参加者数が200名を超えるなど、各教室で多数の先生方の参加をえて、盛況のうちに無事終了しました。

(1) 日程と参加の先生方の数 (カッコ内は去年の数)

8月3日名古屋 (中) 65名	4日 (高) 63名	計 128名 (98名)
8月6日大阪 (高) 88名	7日 (中) 91名	計 179名 (198名)
8月13日東京 (高) 201名	14日 174名	計 375名 (344名)
8月17日東京 (中) 159名	18日 126名	計 285名 (263名)
全体の参加者数 967名 (903名)		

(2) 講義の様子

中学高校向けの講義は、教育学、教科教育、経済学、歴史、金融のそれぞれの分野での新しい動向の紹介や、教科書をもとにした、基本的な知識・理論の丁寧な解説があり、参加の先生の高い評価を受けています。

大学入試問題や高校入試問題を取り上げた講義と実践報告も、現場に影響する入試問題を授業にどう生かすかという新たな視点を提起したものとなりました。

中高の実践報告や教材紹介では、明日から使える教材や授業へのヒントが満載でした。特に、今年は各部会での活動を踏まえたものが多く出されてきたのが特色でした。

大竹先生の講演では、現場教員の日頃の実践の客観的評価や帰結を振り返るために有益な情報を提供していただきました。

中学向けの教室での「みんなで語ろう」に関しては、参加者が減っていて、その背景の分析や今後の在り方に課題を残しました。

(3) まとめと内容の公表

各教室での講義内容に関しては、講師の先生方の校閲を経たうえでネットワークのHPに近日中にアップされる予定です。

【 2 】 イベントカレンダー

*9月以降の部会予定です。(既報)

■ 東京部会 (No. 77) を開催します

日時：2015年9月5日(土) 14時00分～16時30分

場所：日本大学経済学部 (本館会議室)

今回は札幌、大阪部会からメンバーが派遣され情報交換が行われます。

参加方法などは以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo077flyer.pdf>

■ 札幌部会 (No. 14) を開催します

日時：2015年9月12日(土) 14時30分～17時00分

場所：キャリアバンク セミナールーム

札幌市中央区北5条西5丁目7番地 sapporo55 5階

参加方法などは以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/Sapporo/Sapporo014flyer.pdf>

■ 京都部会 (No. 30) を開催します

日時：2015年9月18日(金) 19時00分～21時00分

場所：同志社大学 良心館4階第二共同研究室

参加方法などは以下の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/kyoto/kyoto030flyer.pdf>

■大阪部会 (No. 45) を開催します

日時：2015 年 9 月 26 日 (土) 18 時 00 分～20 時 00 分

場所：同志社大学 大阪サテライト

大阪市北区梅田 1-12-17 梅田スクエアビルディング 17 階

参加方法などは以下の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka45flyerRR.pdf>

■名古屋部会 (No. 3) を開催します

日時：2015 年 10 月 17 日 (土) 15 時 00 分～17 時 00 分

場所：椋山女学園大学 現代マネジメント学部棟 3 階 303 講義室

参加方法などは以下の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/nagoya/Nagoya003flyerR.pdf>

* 関連団体の情報です

■NRI 「学生小論文コンテスト」締め切りが迫っています。

10 回目になる、野村総合研究所の小論文コンテストです。高校生の部の締切は 9 月 14 日。まだ、間に合います。

本年度のテーマは、世界に向けて未来を提案しよう！

2030 年に向けて－「守るもの」「壊すもの」「創るもの」です。

<https://www.nri.com/jp/event/contest/gaiyo/index.html>

■金融広報中央委員会「金融教育に関する小論文・実践報告コンクール」締切が迫っています。

(1) 第 48 回「おかねの作文」コンクール (中学生)

(2) 第 13 回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール

どちらも締め切りは、9 月 20 日です。

<http://www.ron2015.jp/>

(3) 第 12 回「金融教育に関する小論文・実践報告コンクール」

12 回目になる先生方の向けのコンクールです。小論文部門、実践報告部門、研究部門の三部門があります。締め切りは、9 月 30 日です。

<http://www.ron2015.jp/pdf/tc.pdf>

■官庁統計からおもしろネタを集めよう

夏休み経済教室でもおもしろネタが沢山紹介されました。

とはいえ、毎日の授業準備をしながらネタ集めは大変な作業。新聞やニュース、通勤や買い物など、日頃からネタになりそうな話題をチェックすることはそうたやすいことではありません。

ネタ探しに決定打はないのですが、それでも意外に活用できるのが、官庁統計です。現在は情報公開の時代ですから、様々な調査類が公表されています。

そのなかでも、一番まとまってその種の統計が検索できるのが統計局のホームページです。とはいえ、隅から隅まで見て回るわけにはいきません。そこで注目するのは「統計トピックス」というページです。ここでは、その時々に合わせての統計が紹介されています。最新のものは、子どもの数です。

また、全国消費実態調査は、おもしろネタが満載です。ただし、全体がまとめられているのは平成 21 年調査なのでちょっと古くなっています。平成 26 年調査は、現在、耐久消費財関係がまとめられて公表されています。

例えば、21 年調査からは、日本で人世帯当たりの消費が一番多いのは何県？（富山）、逆に少ないのは？（沖縄）などがそこから出てきます。ほかにも、クルマへの支出が一番多い県は？（島根）、逆に一番少ないところは？（東京）、魚はどここの県が一番食べているか？（岩手）、逆に肉は？（沖縄）など生活に密着したデータがたくさん出てきます。そこから地域の特色や生活スタイルの違いなどにも発展できます。

統計局には、「なるほど統計学園」という生徒向け、指導教員向けのページもあります。ここからネタを拾うこともできます。

経済関係だったら、経済産業省、中小企業庁、農林水産省、国土交通省、観光庁、財務省などの HP から統計関係や生徒向けのページをネットサーフィンしてもよいかもしれません。ただし、官庁情報は、その官庁の政策の合理化のためにこの種の統計を使うこともありますから、おもしろネタだからと言って、無批判に使うことは慎重であることも必要になります。

今は、先生方が一人に一台パソコンが配置されている学校がほとんどでしょうから、すき間の時間を使って、こんな教材集めはどうでしょうか。

■前号、機会費用の訂正

8 月号で「三匹の子ぶたで機会費用を教えよう」というヒントを書きました。

数値例をいれて計算させてみようということで、数値例をいれましたが、それが不十分でした。次のように訂正します。

子ぶた三兄弟は、遊び好きで、遊びは1時間100円分の満足を得られます。
三人は、それぞれ家を建てるために遊びをあきらめなければなりません。

わらの家は、1時間でできるとします。

木の家は、2時間です。

レンガの家は、5時間が必要です。

家を建てるにはお金も必要です。

わらの家は、200円で出来ます。

木の家は、300円です。

レンガの家は、400円かかるとします。

そうすると費用はいくらになるでしょう。

わらの家=建設費+諦めた遊び分=200円+(1時間×100円)=300円

木の家=同=300円+(2時間×100円)=500円

レンガの家=同=400円+(5時間×100円)=900円 となります。

ここから言えるのは、家を建てるための費用は、直接かかる目に見える費用だけでなく、家を建てるために諦めた遊ぶ時間も費用と考えないといけないということです。

レンガの家には高い機会費用(会計費用+放棄費用)がかかっていることがわかります。ここまでの説明が一番簡単な機会費用の数値を使った説明になります。つまり、しっかりした家を建てるには高いコストがかかるんだ、です。

ところが、これだけでは、高いコストでレンガの家を建てた一番下の子ぶたが本当に賢かったということは、証明されていません。なぜなら、上の事例ではコストは考えられていても、ベネフィットを登場させていないからです。

ある決定が本当に意義があったと言えるのは、コストだけでなく、ベネフィットの吟味が必要です。そして、ベネフィットからコストを引いたネットベネフィット(純効用)を計算して、それが最も大きい行動をとることが、最も賢い選択であること示す必要があります。

では、この話のベネフィットは何でしょう。それは家を得ること+遊ぶ時間ということになります。

家を建てるベネフィットにはどんなものがあるのでしょうか。このお話で、ベネフィットの一番大きな家の価値は、快適さと安全性ではかります。特に安全性に関しては、持ち主がどれだけの危機意識を持ち、それに合わせてどれだけ防犯の備えをしているかが問題になります。

そうすると、三匹はそれぞれ異なった家へのベネフィット、つまり価値感を持つはず

ですから、その数字を入れて、そこから、それぞれ、わら家を建てた時、木の家を建てた時、レンガの家を建てた時の三通りの、三人が感じる「お得感」、つまり
(ベネフィット－コスト＝ネットベネフィット、純効用)を計算してゆかなければなら
なくなります。ケースとしては9通りの計算です。それを比較して、三匹がその時点では、
なぜ違う家を建てたのか、それは合理的な判断だったのかを吟味することになります。

それだとたいへん複雑になってきます。また、上では三人の遊びの価値が同じである
として計算していますが、もし違っていたら、三人の時間コストが違ってきますから、
また違った計算をしてゆかなければなりません。

危機意識に関しても、オオカミに襲われる確率や期待値まで計算してその数字を出す
ことも必要になるかもしれません。こうなるともっと大変です。

経済の考え方の面白さや機会費用の大切さ知るには、そこまで考えてゆく事が必要で、
さらに広がりをもつのでしょうが、中高の教室での活用のヒントとしては、コストの
説明でとどめておいた方がよさそうです。

このように考えてゆくと「三匹の子ぶた」を正確に経済で読み解くことは、予想外に
複雑になりそうです。

なお、ここで数値をいれずに文章で書いた部分は整理をして、後日ネットワークの
教材のページにアップしたいと考えています。間違いを指摘して、数値例を紹介いた
だいた荒渡良先生（名古屋大学）に感謝いたします。

(新井)

【 4 】編集後記（みみずのたはこと）

8年目となる夏休み教室終了。感想は、先生方がおとなしくなったということです。
当初は、反対意見や、俺にも言わせろという質問が結構あって緊張する場面もありま
したが、昨今は質問なしの講義も結構あります。「みんなで語ろう」の出席者も減少
気味。昨今の教育行政のなかで「モノ言えば」の状態になっていることの反映だと
すると、おとなしいのはちょっと怖いなと思っています。（新井）

=====
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページよりお
手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>



編集・発行 : 経済教育ネットワーク

(C) Network for Economic Education ◆◇